

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1～P2 日臨技支部医学検査学会開催報告（5）【北日本支部】

P2～P3 全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 第2回

P4～P8 2025年度 日臨技臨床検査精度管理調査実施要領

P9～P10 徳島県臨床検査技師会「災害時における臨床検査薬等の供給に関する協定書」を中四国臨床検査薬卸連合会と締結

P10 令和6年度臨床検査技師のための臨床研究とCRCに関する研修 参加者募集中！

P11 地元高校で臨床検査技師の仕事をアピール！

日臨技支部医学検査学会開催報告(5)

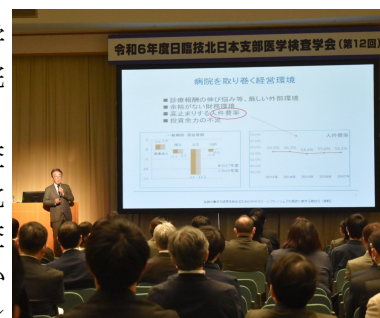
2024年度 北日本支部医学検査学会

共創思考・力 ～ 未知の奥（みちのく）にある新しい価値 ～

学会長 藤巻 慎一



講演 2 演題は東北大学病院病の張替秀郎病院長から「病院マネジメントからみた臨床検査の新しい価値」と東北医科薬科大学臨床検査部の高橋伸一郎部長から「検査室マネジメントからみた新しい価値」と題して、それぞれ視点で臨床検査技師部門や臨床検査技師への組織ミッションの重要性と新たな存在価値への転換を見据えたメッセージをいただきました。また、特別企画 2 演題は永生総合研究所所長の神戸翼先生から「臨床検査のワクワクをつくる～技師の想いとストーリーを届けるボードゲーム～」と題して、臨床検査技師ワクワクプロジェクトとそこで開発したキャリアボードゲームの今後の展開やネットワーキングの大切さについて座談会を行い、また、メモリアルスローンケタリングがんセンターの柳田絵美衣先生から「がんゲノム医療と米国留学を通して思うこと」と題してこれまでの技師キャリアの根っここと今後の想いについて熱い講演をいただきました。さらに、日臨技企画 1 演題、教育講演 7 企画、シンポジウム 4 企画、ワークショップ、症例検討カンファレンス、学生フォーラムとどれも非常に魅力ある企画であったことから、どの会場も人だかりでした。また、「高校生進路支援ガイダンス」では21組の高校生とその保護者が参加し、学性フォーラムの見学や大学生との交流、展示会場での最新分析装置の見学など、大変喜んでいた



横地会長 基調講演

令和6年度の日臨技北日本支部医学検査学会（第12回）は2024年12月14日（土）から15日（日）に仙台国際センターにて現地開催いたしました。会場都合により他の支部学会から遅れての冬季開催となりましたが、期間中は天候に恵まれ1,003名の方にご参加いただき、盛会裏に終了することができました。この場を借りですべての関係各位に御礼申し上げます。

本学会では、「共創思考・力～未知の奥（みちのく）にある新しい価値～」をテーマとして掲げ、学会参加者がそれぞれ何らかの新たな気付きや振り返りから、もう一步チャレンジする機会となる場となることを目指しました。

一般演題は支部会員の皆様から154演題もの演題が集まり、どの発表も実践的かつ有効な研究内容でどの会場も双方向のディスカッションで盛り上がりしました。

基調講演は日臨技代表理事横地常広会長より「医療DXその先に…」と題して、医療及び社会の変化には現場力とその適応力が重要であると理解しました。特別



写真左：
学生フォーラム

写真下：
高校生進路ガイダンス



だったようです。

ランチョンセミナーおよびスイーツセミナーは9演題、機器試薬展示は40社（44ブース）であり、どの会場、展示ブースもゆったりと情報交換ができたと好評でした。

学会1日目の情報交換会では定員いっぱいの300名を超える参加があり。宮城の選りすぐりの地酒コーナーや仙台すずめ踊りの見事な演舞やお囃子で会場は大いに盛り上がりました。

最後に、本学会の開催にあたり、ご支援いただきました日臨技会員、賛助会員、関係各位には（一社）宮城県臨床検査技師会会員一同、心より感謝を申し上げます。

全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 第2回

秋田県

全国「検査と健康展」in大曲を令和6年11月23日（土）にイオンモール大曲特別催事場で開催しました。ショッピングモールでの開催のため、多くの家族連れの皆さんが来場されました。



検査体験コーナーでは超音波装置でコーヒーゼリーの中に入っている果物を探したり、顕微鏡で細胞を見たり、と技師の仕事に繋がるような体験をして楽しんでいただきました。「将来、臨床検査技師になりたい!」という中高生には、当技師会の若手技師が、臨床検査技師になるためにどのようにしたのか、どんな仕事をしているのか、など自分の体験を踏まえて説明しており、技師養成校のパンフレットなどを配布しました。

検査体験では「骨密度検査」107名、「加速度脈波検査」152名、「血圧測定」77名、「医師の健康相談」21名と、3時間の開催では足りないほどの盛況な「検査と健康展」となりました。

総来場者数260名と、多くの方々に臨床検査技師とその仕事を知っていただく良い機会となりました。

（秋田県臨床検査技師会 藤谷 富美子）

臨床検査技師のお仕事体験として「鼻咽頭拭い液の検体採取体験」と「顕微鏡体験」を企画しました。「鼻咽頭拭い液の検体採取体験」では、綿棒をかなり奥まで入れないと、綿棒が青くならず驚いている様子でした。顕微鏡体験では、現在実写映画化している「はたらく細胞」が大好きなお子さんも、血液とがん細胞を観察しながら検査技師の説明に興味深く聞いておりました。その他、脳年齢と血管年齢など健康チェックを実施し、たばこを辞めようと考えていた来場者もありました。また、臨床検査技師になることができる大学が県内に4校もあるということで、各大学のパンフレットを、喜んで持ち帰る親御さんの姿もありました。当日のイオンモール亀田インター店ではブラックフライデーのイベントが開催されていたこともあり、来場者も多く、300部のパンフレットは午前中で終了しました。

今回のイベントを通して、臨床検査技師の知名度向上に繋がったと思われます。

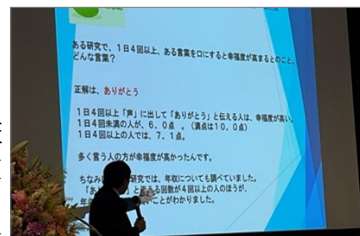
（新潟県臨床検査技師会 田端 篤）

茨城県

令和6年度全国「検査と健康展」in IBARAKIを、令和6年11月10日（日）につくば国際会議

場にて開催しました。市民参加型検査チェック（血管年齢測定・骨密度測定・物忘れチェック・体組成測定）と市民公開講座、臨床検査技師お仕事紹介のポスター掲示を実施しました。毎回参加いただいている方もいまして県民の健康に対する関心の高さが感じられました。

今回は、主に茨城県県南地区に勤務する茨城県臨床検査技師会会員20名を実務委員とし開催しましたが、慣れない環境の中精一杯頑張ってくださいました。市



新潟県

2024年11月24日（日）のイオンモール新潟亀田インターにて、全国「検査と健康展」2024inNIIGATAを開催しました。



民公開講座では、医療ジャーナリストとしてテレビ等で活躍されている森田豊先生に、「知って得する心と体の健康法」との演題で、人気ドラマでの医療監修の話やテレビ視聴者に対する情報提供方法を交え、心と体を健康に保つ方法について講演いただきました。森田先生の講演は、挙手やインタビューを交えた会場参加型でして、参加者にわかりやすく興味があるよう講演いただきました。健康チェックと市民公開講座を通じて、県民の方々の、健康に対する意識の向上と臨床検査技師に対する理解が深められたと感じております。

(茨城県臨床検査技師会 木村 靖子)

埼玉県

令和6年11月9日(土)浦和駅西口コルソ1階コルソ通りにて、全国「検査と健康展」埼玉会場を開催しました。今回は「血管年齢測定」「検査パネル展示」「検査説明・健康相談」を企画し、日本臨床検査専門医会からの派遣医師1名を含め、実務委員26名で運営を行いました。

委員は8時45分頃よりイベント使用物品を会場へ搬入。マニュアルに従い、当日の流れ・配置・受付手順・機器の使用法・市民への案内や対応方法などを確認し、10時の開始時間に備えました。当日は天候にも恵まれ、地域のタウン誌を活用し広報活動を行ったこともあり、イベント開始前から検査パネル展示に興味を示し、立ち止まって臨床検査技師から説明を受けたり、開始後も血管年齢測定の列が途切れることなく、終了予定の15時まで続けました。測定結果を使用しながらの検査説明や、医師の健康相談を行い、当日の来場者は480名と大変盛況なイベントとなりました。来場者からは「血管年齢を知って、生活習慣を見直すきっかけになった」「病院では聞けないような詳しい説明が聞いて良かった」等、多くの感謝の言葉をいただき、子どもや学生も興味を持って参加してくれました。

本イベントを通して、市民への臨床検査の啓発や健康増進に寄与することができました。

(埼玉県臨床検査技師会 塚原 晃)

千葉県

令和6年11月23日(土)祝日において千葉県印西市イオンモール千葉ニュータウン店イオンホールにて全国「検査と健康展」in Chibaを開催しました。

昨年より検査体験コーナーを増やし、臨床医による検査説明相談も実施し、年齢問わず体験できる模擬検査体験も幅広い世代で好評が得られました。

今回、2回目の開催となる印西市のイオンモール千

葉ニュータウン店での来場者数は108名でした。事前に印西市のみならず近隣の自治体への広報も行いましたが、来場者の大半は、当日偶然来られた方々で、全国「検査と健康展」の案内を事前に知って来られた方は少数でした。広報など周知方法も検討改題として来年に活かさなくてはならないと感じました。

検査体験コーナーでは、血管年齢測定、非観血的貧血検査、AGEs測定、肺年齢測定、肌年齢測定、簡易心電図測定。模擬検査体験コーナーでは、模擬尿定性検査、顕微鏡を用いて血液像検査体験。検査体験コーナー数を増やして来場者満足度向上に繋がり、臨床検査技師認知度向上に寄与できたのでは感じました。

来年度は更に多くの市民皆様に臨床検査を知る機会となるように取り組みたいです。

(千葉県臨床検査技師会 相原 治幸)

神奈川県



2024年11月3日(日)、「検査と健康展」を横浜の新都心プラザにて開催しました。例年通り技師会より支給されたリーフレット・缶バッジ・ポケットティッシュなどを配布した他、頸動脈エコー体験、物忘れ相談プログラム体験を実施しました。

また、今年度から新たな試みとして骨密度測定体験を取り入れた他、頸動脈エコー・物忘れ相談プログラムの配置台数を2台に増やすことで、より多くの方に検査技師活動の周知を行えるよう取り組みました。開催会場の横浜新都心プラザは人通りが多いこともあり、多くの方に興味を持ってもらうことができました。例年好評の頸動脈エコー体験や物忘れ相談プログラム体験にも多くの方が集まりましたが、今年度より取り入れた骨密度検査体験は予想以上に多くの方が集まり、今後の活動において新たな体験として定着しそうな雰囲気を感じました。臨床検査専門医による健康相談にも多くの人が集まり、参加していただいた市民の皆さんの健康増進にも寄与できたと思います。

来年度は中央開催となるため、より一層力を入れて臨床検査技師活動に興味・関心を持っていただけるように実施したいと思います。

(神奈川県臨床検査技師会 脇坂 佑紀)

ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた会員の皆様、ありがとうございました！



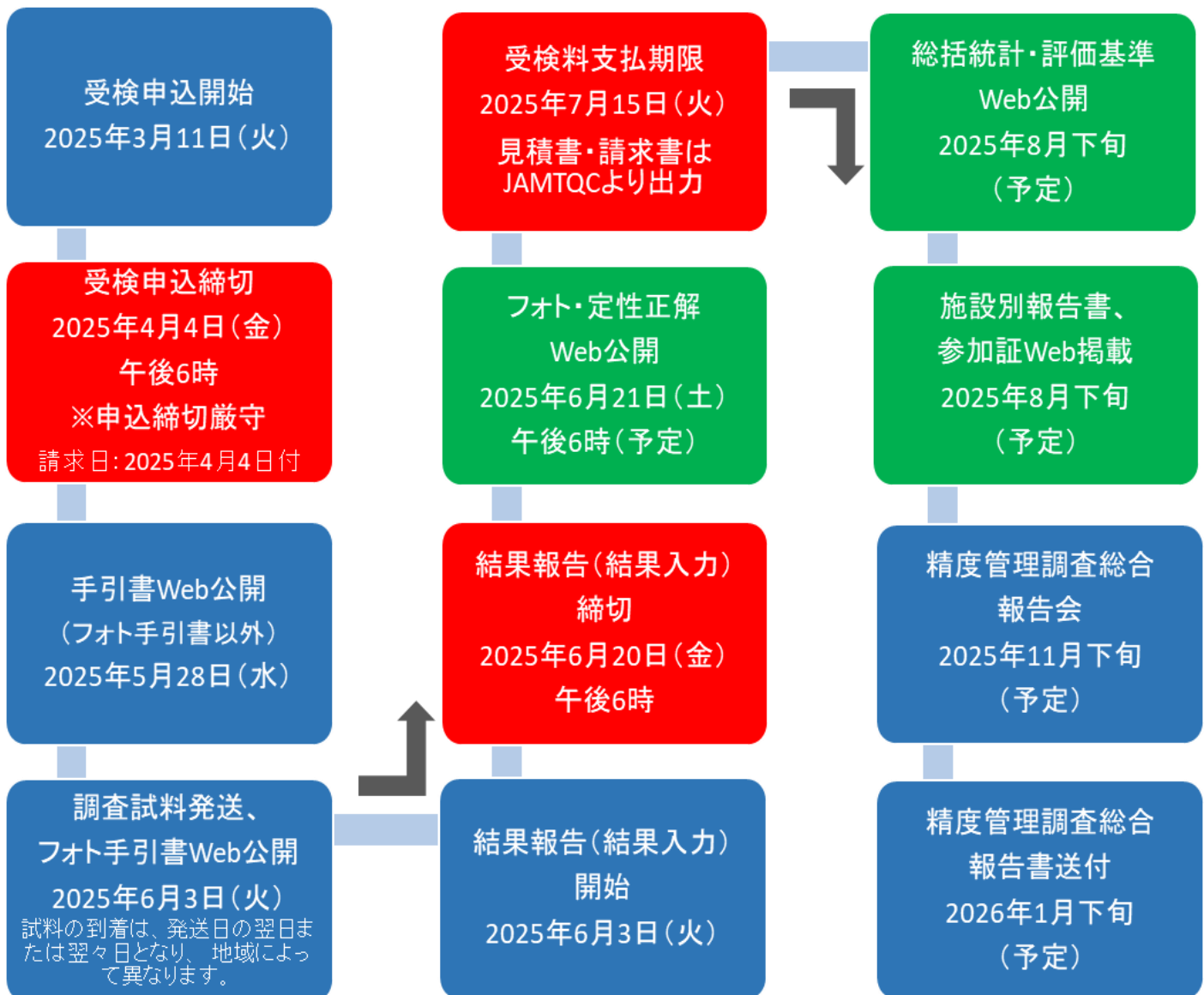
2025年度 日臨技臨床検査精度管理調査実施要領

当会が実施する「日臨技臨床検査精度管理調査」は、臨床検査の全分野を網羅する国内唯一の外部精度管理調査であり、4,600を超える参加施設があります。平成30年12月より施行された改正省令（平成30年厚生労働省令第93号）においても、当会の精度管理調査は、受検に努めることとされている外部精度管理調査（改正後医療法施行規則第9条の7の2第2項関係）の受検先として推奨されているところです。

当会では、単に精度管理調査の実施にとどまらず、是正・サポートも含めた検査室の品質保証施設認証制度による総合臨床検査品質保証体制の構築も視野に入れております。

受検を希望されるご施設は、以下に記載されている説明をご熟読の上、お申込みくださるようお願いいたします。なお、お申込みできる期間、及び申込数には制限がありますのでご注意ください。

I. 調査実施日程(予定)



Ⅱ. 受検番号、及び受検料

受検コースは、1～13、S 1～S 3の16コースに分かれています。

1～13、及びS 1～S 3の受検番号より、申込みを希望する番号を選択してください。
ただし、受検項目が重複する受検番号の組み合わせは選択することができません。

(例：1番と11番、2番と3番、4番と5番 等)

受検番号	受検項目	受検料
1	基本項目 (①臨床化学、②免疫血清、③血液、④一般)	24,444円 (税抜価格 22,222円)
2	微生物A (グラム染色、フォトサーベイなど)	4,074円 (税抜価格 3,704円)
3	微生物B (グラム染色、細菌同定2種、細菌薬剤感受性2種、フォトサーベイなど)	14,259円 (税抜価格 12,963円)
4	輸血A (ABO血液型、RhD血液型)	15,277円 (税抜価格 13,889円)
5	輸血B (ABO血液型、RhD血液型、不規則抗体スクリーニング、不規則抗体同定、試験管法による凝集反応、フォトサーベイ)	18,333円 (税抜価格 16,667円)
6	遺伝子A (結核菌群定性)	12,222円 (税抜価格 11,111円)
7	遺伝子B (HCV定量、HBV定量)	16,296円 (税抜価格 14,815円)
8	生 理	2,037円 (税抜価格 1,852円)
9	細 胞	2,037円 (税抜価格 1,852円)
10	病 理	2,037円 (税抜価格 1,852円)
11	1 + 3 + 5 + 8 + 9 + 10	57,037円 (税抜価格 51,852円)
12	11 + 6	65,184円 (税抜価格 59,259円)
13	11 + 6 + 7	81,481円 (税抜価格 74,074円)
S1	免疫血清 (甲状腺項目：TSH、FT4)	13,200円 (税抜価格 12,000円)
S2	遺伝子 (SARS-CoV-2遺伝子核酸増幅)	7,000円 (税抜価格 6,364円)
S3	POCT (インフルエンザA型抗原、B型抗原、アデノウイルス抗原、RSウイルス抗原、肺炎マイコプラズマ抗原、A群溶血性連鎖球菌抗原、SARS-CoV-2抗原)	12,222円 (税抜価格 11,111円)

Ⅲ. 受検項目

貴施設で自ら実施している検査項目のみ受検することができます。

※外部に委託している検査項目は受検できません。

1. 基本項目	
① 臨床化学	② 免疫血清
グルコース(Glu)	フェリチン
総ビリルビン(TB)	AFP
直接ビリルビン(DB)	HBs抗原(定性・定量)
ナトリウム(Na)	HCV抗体(定性・定量)
カリウム(K)	梅毒TP抗体(定性・定量)
クロール(Cl)	CEA
カルシウム(Ca)	PSA
無機リン(IP)	β 2マイクログロブリン(β 2M)
鉄(Fe)	リウマトイド因子(RF)定量
マグネシウム(Mg)	③ 血液
総蛋白(TP)	ヘモグロビン濃度
アルブミン(Alb)	血小板数
尿素窒素(UN)	白血球数
クレアチニン(Cre)	赤血球数
尿酸(UA)	平均赤血球容積(MCV)
総コレステロール(TC)	ヘマトクリット値
中性脂肪(TG)	プロトロンビン時間
HDL-コレステロール(HDLC)	活性化部分トロンボプラスチン時間
LDL-コレステロール(LDLC)	フィブリノゲン量
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)	フォトサーベイ等【血液像、その他】
アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)	④ 一般
アルカリホスファターゼ(ALP)	尿蛋白(定性)
乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)	尿糖(定性)
クレアチンキナーゼ(CK)	尿潜血(定性)
γ -グルタミルトランスフェラーゼ(GGT)	便中ヒトヘモグロビン(定性・定量)
アミラーゼ(AMY)	フォトサーベイ等【尿沈渣、脳脊髄液、寄生虫、その他】
コリンエステラーゼ(ChE)	
尿グルコース(uGlu)	
尿蛋白(uPro)	
尿クレアチニン(uCre)	
ヘモグロビンA1c(HbA1c)※NGSP値	
C反応性蛋白(CRP)	
免疫グロブリンG(IgG)	
免疫グロブリンA(IgA)	
免疫グロブリンM(IgM)	

オプション項目	
2. 微生物A	8. 生理
グラム染色	フォトサーベイ 【心電図、超音波、神経生理、呼吸機能、聴覚】
フォトサーベイ等 【設問文からの菌推定など】	9. 細胞
3. 微生物B	フォトサーベイ 【婦人科、呼吸器、その他】
グラム染色	10. 病理
細菌同定2種	フォトサーベイ等 【病理標本作製技術、その他】
細菌薬剤感受性2種	S1. 免疫血清(甲状腺項目)
フォトサーベイ等 【設問文からの菌推定など】	甲状腺刺激ホルモン(TSH)
4. 輸血A	遊離サイロキシシン(FT4)
ABO血液型	S2. 遺伝子(SARS-CoV-2遺伝子)
RhD血液型	SARS-CoV-2遺伝子(核酸増幅)
5. 輸血B	S3. POCT(感染症項目)
ABO血液型	インフルエンザA型抗原
RhD血液型	インフルエンザB型抗原
不規則抗体スクリーニング	アデノウイルス抗原
不規則抗体同定	RSウイルス抗原
試験管法による凝集反応	肺炎マイコプラズマ抗原
机上問題(抗体同定)	A群溶血性連鎖球菌抗原
6. 遺伝子A	SARS-CoV-2抗原
結核菌群(TB)定性	
7. 遺伝子B	
C型肝炎ウイルス(HCV)定量	
B型肝炎ウイルス(HBV)定量	

IV. 受検申込み方法 ※申込み締切り後は、受付できません。

1. 申込みに当たって

本精度管理調査はWebを介してのみ受検、申込み頂いております。

精度管理調査のWebサイトに入るためには、「施設番号」、及び「施設パスワード」が必要となります。

当会登録施設には、「施設番号」、「施設パスワード」、及び「実施要領」を **2025年3月11日(火)**に郵送いたします。なお、この「実施要領」は日臨技ホームページ、JAMTQC 参加施設向けシステムにも掲載しております。

※お申込みには、当会に施設登録が必要です。

2. 申込み方法

当会のホームページ <https://www.jamt.or.jp/> より、トップページの上段左から2番目のバナー



をクリックし、『JAMTQC 参加施設向けシステム』から施設番号と施設パスワードを入力してログイン ⇒ 『事務メニュー』 ⇒ 『精度管理事業』を選択してお申込みください。

なお、画面右上に『入力ガイド』を掲載していますので、ご参照ください。

※試料は充分数用意していますが、申込期間内であっても受検申込数が試料準備数に達した場合は、その時点で受付を終了します。

※申込み受付終了後の申込み内容の変更、キャンセル等は一切お受けできません。

3. 受検申込み期限

2025年3月11日(火) 午前10時 ~ 4月4日(金) 午後6時 まで

V. 受検料の支払いについて

受検料の支払期限 : 2025年7月15日(火) 厳守

※請求書の発行日は、受検申込締切日の2025年4月4日付となります。

受検料の支払方法 : 払込票(コンビニ及び郵便局払い)

※2023年度より、受検料の支払方法が「銀行振込」から「払込票」に変更となっています。受検料の支払方法にご注意ください。

※受検施設に別便で送付する「払込票(コンビニエンスストア及び郵便局払い)」によるお支払いのみとなっています。差出人は、「みずほファクター株式会社」名で、白い窓あき封筒でお送りします。払込票は、申込締切後より1週間程度でのお届けとなります。

払込票は、精度管理調査申込画面『受付入力』⇒『請求先』にご入力された住所、担当者宛に郵送でお送りします。申込終了後の修正等はできませんので、ご入力内容にお間違いがないことをご確認いただき、お申込みをお願いします。

また、請求書の出力は従来とおり各施設でお願いします。出力方法は、JAMTQCシステムにログイン⇒『事務メニュー』⇒『精度管理事業』⇒『請求書』から出力できます。

以下の事項にご留意ください。

- 1) 「見積書」、「納品書」、「請求書」は、**受検申込み締切日以降**に『事務メニュー』から打ち出し可能となりますので、必要な場合は印刷してご使用ください。当会にて、受検料の入金確認後より領収書の印刷が可能となります。
- 2) 当会から発行いたします「見積書」、「納品書」、「請求書」などの**信憑書類について、発行日の変更、押印、書式の変更等の対応は一切いたしません。また、施設所定の請求書への対応もいたしかねます。**ご承知おきください。当会では、申込確定日(締切日)を請求日としています。

VI. 日臨技からのお願い

◇調査データの第3者への提供について

この精度管理調査の集計結果は、各都道府県、支部、経営主体別技師会などより提供の依頼があった場合や、担当役員・委員が必要と判断した場合に、当会執行理事会にて、そのデータ利用目的の妥当性を審議した後に、これを提供することがあります。また、不良評価に対してサポート事業の目的で、都道府県技師会へ情報を提供し、検査の質向上のためフォローアップ対応を実施することもあります。また、当会の臨床検査データ標準化事業の解析に使用することもありますので申し添えます。

◇メールアドレスのご登録のお願い

精度管理調査期間中に緊急で大切なお知らせ等は、申込み時に登録されたメールアドレス宛にお送りすることがあります。必ず受信可能なメールアドレスのご登録をお願いします。また、期間中はJAMTQCトップメニューのお知らせ、メールの確認を定期的にお願ひします。

◇評価について

評価は、指導改善を目的とし4段階での評価(評価A・B・C・D)とします。
具体的な評価方法については、施設別報告書に記載します。

◇注意事項

1. **本精度管理調査の申込みと回答は、Webからのみです。**
『Webからの申込みと回答』が不可能な場合は、この調査を受検することができません。
2. 調査の手引書、フォトサーベイ集はWeb画面に掲載しますので、必要なページをご覧ください。
当会から印刷物やCD-R等での配付はありません。
3. 施設別報告書、総括統計表、参加証は、2025年8月末頃にWeb画面へ掲載する予定です。また、参加証は、総合報告書の送付時に印刷したものを同封します。
施設別報告書と総括統計表は、当会から印刷物としての配付はありません。
4. 受検料支払期日、及び施設別報告書公開日までに、お支払いが完了していない場合、施設別報告書、ならびに参加証は発行されません。入金確認後の発行となります。
5. 2025年6月3日試料送付の際、住所登録間違い、宛先不明などの理由により再配送となった場合は、貴施設の負担(有料)となります。**※場合により再配送不可申込終了後の修正等はできませんので、ご入力内容にお間違いがないことを十分にご確認いただき、お申込みをお願いします。**
6. 施設内内部精度管理調査データの入力にご協力ください。

VII. お問い合わせ先

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 精度管理調査 担当
〒143-0016 東京都大田区大森北4-10-7 Mail: jamt-survey@jamt.or.jp

※お問い合わせはmailでお願いします。

徳島県臨床検査技師会

「災害時における臨床検査薬等の供給に関する協定書」を中四国臨床検査薬卸連合会と締結

徳島県臨床検査技師会 会長 元木 一志



徳島県臨床検査技師会は令和6年11月19日、徳島大学にて中四国臨床検査薬卸連合会と「災害時における臨床検査薬等の供給に関する協定書」を締結いたしました。この協定は、災害発生時において、臨床検査は医療現場における重要な情報を提供し、適切な治療や健康管理につなげるために不可欠な役割を果たすことを目指しています。臨床検査技師は、検査機器の維持管理や検査の実施、結果の分析など、災害時の検査体制を支える中心的な存在です。一方、医薬品卸売業者は、医療機関への医療資材の供給や、検査試薬や検査機器の確保、配送といった重要な機能を担っています。こうした臨床検査技師と医薬品卸売業者の連携の重要性を踏まえ、徳島県臨床検査技師会と中四国臨床検査薬卸連合は、徳島県と3者による連携的構造となる「トライアングル協定」を締結したこととなります。災害発生時に、両団体と徳島県が迅速に連携して臨床検査体制を確保し、医療支援活動を行うことを目的としています。具体的には、医療機関への検査試薬の供給や、検査機器の維持管理、検査人材の確保など、災害時の臨床検査に関する様々な取り組みが定められています。

本稿では、この協定の意義と、両団体と徳島県が築いている連携体制の重要性について述べていきます。

【協定締結の経緯と背景】

過去の災害においては、臨床検査体制の脆弱さが大きな課題となってきました。東日本大震災では、検査試薬や検査機器の不足、検査要員の確保困難など、医療現場における検査体制の混乱が発生しました。同様の問題は、熊本地震や西日本豪雨などの災害でも認められており、被災地の医療ニーズに迅速に対応できない状況が生み出されていました。このような経験を踏まえ、徳島県臨床検査技師会と中四国臨床検査薬卸連

合は、徳島県と協力して災害時の臨床検査体制の強化に取り組む必要性を強く認識するに至りました。検査試薬や検査機器の確保、検査要員の派遣など、災害発生時の医療支援活動を円滑に行うために関係機関の緊密な連携が不可欠であると考えました。また、これらの連携体制を制度化し、法的な位置づけを明確にすることで災害時の臨床検査支援活動をより確実なものにできると判断しました。そこで今回、徳島県臨床検査技師会と中四国臨床検査薬卸連合が協定を結ぶことで、既存の徳島県との協定を生かしそれぞれの役割と責任を明確にするとともに、具体的な連携方法を定めることとなったのです。

このように、過去の災害における課題を教訓とし、臨床検査体制の強化と3者の緊密な連携の必要性を認識したことが、今回の締結の大きな背景となっています。

【協定の内容】

協定の主な内容は以下のとおりです。

まず、各団体の役割と責務が定められています。徳島県臨床検査技師会は、検査機器の維持管理や検査の実施、検査結果の分析などの技術的支援を担当します。中四国臨床検査薬卸連合は、医療機関への検査試薬や検査機器の供給や、検査に必要な医療資材の確保・配送を担当します。一方、徳島県は、両団体の活動を支援し、必要な情報の提供や調整を行うことが定められています。

次に、情報共有と連携体制についても明記されています。災害発生時には、3者が迅速に情報を共有し、連携して臨床検査体制を確保する仕組みが定められています。具体的には、検査試薬や検査機器の在庫状況、検査要員の確保状況などの情報を共有し、必要に応じて相互に支援を行うことが規定されています。また、平時から定期的な会議を開催し、訓練や評価を行うことで、連携体制の維持・向上を図ることとしています。

さらに、この協定は、徳島県災害対策条例に基づいて締結されており、法的な根拠を有しています。この条例では、県、市町村、指定地方公共機関などが協力して災害対策に取り組むことが定められており、今回の協定はその一環として位置づけられています。このように、法的な裏付けを持つことで、災害時の臨床検査支援活動がより確実なものとなっています。

以上のように、この協定は、災害時の臨床検査体制の確保に向けて、各団体の役割と責務、情報共有と連携体制、法的根拠を明確に定めたものです。この協定に基づいて、3者が協力して迅速な医療支援活動を行うことができるようになっていきます。

【連携体制の実践】

「トライアングル協定」に基づく連携体制の実践においては、定期的な訓練と評価が重要な役割を果たしています。3者は、年に1回以上、合同で災害対応訓練を実施する計画です。この訓練では、検査試薬や検査機器の確保、検査要員の派遣、情報共有の方法など、実際の災害時の対応を想定した演習が行われます。訓練の成果は、関係者による評価会議で共有され、課題の抽出と改善策の検討が行われます。

こうした取り組みを通じて、3者の連携体制は着実に強化されます。今後の訓練では、災害時の情報共有の迅速化や、県災害対策本部との連携強化にも取り組んでいきます。今後の展望としては、さらなる連携強化と実効性の向上が課題となっています。例えば、定期的な合同訓練の回数を増やすとともに、より実践的な想定訓練の実施が求められます。また、医療機関や行政、他の関係団体との連携も強化し、より広範な支援体制の構築が重要です。加えて、ICT技術の活用による情報共有の高度化や、検査体制の自動化など、技術的な革新にも注目が集まっています。これらの取り

組みを通じて、災害時の臨床検査支援活動をより効率的かつ確実なものにしていくことが期待されます。以上のように、「トライアングル協定」に基づく連携体制は、定期的な訓練と評価、課題への対応を通じて、着実に強化されてきました。今後も、3者の絶え間ない努力と、関係機関との連携強化により、より実効性の高い災害対応体制の構築を期待しております。

【おわりに】

「トライアングル協定」は、災害時における臨床検査体制の強化と、迅速な医療支援活動の実現に大きな意義を持っています。徳島県臨床検査技師会と中四国臨床検査薬卸連合が、徳島県と連携して取り組む本協定は、過去の災害で明らかになった臨床検査体制の脆弱性に対する解決策として位置付けられます。

具体的には、検査試薬や検査機器の確保、検査要員の確保など、災害時の臨床検査支援活動を円滑に行うための体制が整備されています。また、3者の緊密な情報共有と連携により、被災地の医療ニーズに迅速に対応できるようになっています。

この取り組みは、災害時に臨床検査の重要性が高まる中で、県民の健康と生命を守るための重要な仕組みといえます。検査体制の確保により、適切な治療や健康管理が可能となり、ひいては県民の安全・安心につながっていくことを目標とします。

令和6年度臨床検査技師のための臨床研究とCRCに関する研修 参加者募集中！

本研修は、臨床検査技師の職域拡大とチーム医療の推進を目指し、臨床研究・治験の倫理性、科学性、信頼性を確保するための知識の提供に加え、演習を設けることで最新の専門知識と技能を習得することを主な目的としています。被験者の安全性の確認、結果の評価のためには、臨床研究・治験における臨床検査の実施が必要です。この機会に是非、参加をご検討ください。

テ マ: 臨床検査技師のための臨床研究・治験スキルアップ ～治験と臨床検査技師の役割～

会 期: 令和7年2月16日(日) 9時30分～16時00分

会 場: Web 開催 (Zoomの利用)

募集人数: 60名

受 講 料: 日臨技会員3,000円 非会員6,000円(税込)

申込締切: 令和7年1月26日(日)

(定員になり次第、申し込みは締め切ります)

申込方法: 会員の方 会員専用ページからの事前申込をしてください

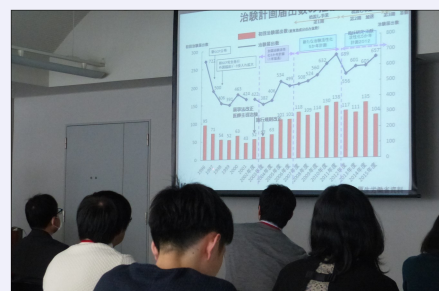
非会員の方 申込書をメールで送付してください

(メールアドレス: gyomuka@jamt.or.jp)

※申込書は当会HPの学会・研修会情報「日臨技主催研修会」からダウンロードできます。

後 援: 日本臨床薬理学会

※日本臨床薬理学会認定CRC制度 認定単位5単位



平成31年度研修の様子
(本年度はWeb開催となります)

地元高校で臨床検査技師の仕事をアピール！

都道府県技師会での独自の活動や様々な現場で活躍する臨床検査技師について紹介していますが、今回は都道府県技師会の組織活動とは別に、ご自身の母校で臨床検査技師についての職業講話を行っている会員の方の活動を紹介します。



臨床検査技師ってどんな仕事？ ～高校での職業講話をとおして感じたこと～

加古川中央市民病院 臨床検査室
横田 隼一郎

皆様は一般国民の臨床検査技師の認知度がどれくらいあるかご存知ですか。

昨年度、共同ピーアール社を通じて実施された認知度調査では、看護師や薬剤師が60%以上の認知度があるのに対し、臨床検査技師は22.7%という結果でした（認知度：臨床検査技師を知っており仕事内容も説明できる）。この結果を受け、日臨技でも認知度向上のポスターの作成をするなど、認知度向上の活動の必要性が高まっている状況です。

さて、私は以前より母校である兵庫県立大学附属高等学校で開催されるOB・OG 社会人職業講話会に毎年参加させていただき、臨床検査技師がどんな仕事をしているか、在校生に講話をさせていただいています。今年度も7月5日（金）に参加させていただきました。本会では、進路を選択する時期である第2学年の生徒に対して、職業の実態を知ってもらうよう、卒業生が10人程度集まり、仕事の内容や苦労話、学生時代の経験などを伝えることが趣旨です。参加する卒業生の職種は県職員、看護師、薬剤師、学芸員、警察官、自治体の広報、データサイエンティスト、外資系企業勤務、海外政府法人勤務など多岐に渡っています。私の所にも例年40名前後の生徒が臨床検査技師に興味を持ち、話を聞きにきてくれます。

講話内容は、学生時代の経験、病院や地方衛生研究所での業務などで、臨床検査技師が現場でどのように活躍しているか、実際の経験を元に話をしています。生徒からの感想では、「実施している検査が多くてびっくりした」や、「そもそも臨床検査技師が何をしているのか知らなかったので、詳しく知れて良かったです」など、臨床検査技師の仕事内容について初めて知ったという意見が多く、「興味を持つことができ



た」、「仕事の選択肢の一つとなった」との感想もいただき、認知度向上に関して一定の効果があったことを実感します。

また、今年度は新たな取り組みとして、講和会に参加してくれた生徒に臨床検査技師に関するアンケート調査を実施しました（回収35名）。興味深い内容として、臨床検査技師のことを知らなかった、あるいは名前は知っているけど業務内容は知らないという学生が89%と一般国民アンケートより10%以上低く、「臨床検査技師が行っている検査はどれでしょうか？」と採血や血液検査、心電図など複数の選択肢を作成し答えてもらったところ、臨床検査技師が採血できることを知っている学生は45%、X線検査を臨床検査技師が実施できると思っている学生が68%いました。いかに臨床検査技師の業務内容が曖昧で高校生に知られていないかということが明らかとなりました。次代を担う高校生の認知度がこの状況では、優秀な人材の確保は困難であり、臨床検査技師の認知度向上に対する取り組みは喫緊の課題であると改めて感じました。

「横田さんの話を聞いて臨床検査技師になりました」という卒業生には残念ながら未だ会えませんが、それを夢見て微力ながら今後も活動をしていきたいと考えております。本報告が会員の皆様の危機感を少しでも刺激し、臨床検査技師の仕事を広める活動につながれば幸いです。

（編集後記）今年も正月恒例の海上釣り堀に行き、仲間と共に30年の節目を迎えました。イベントが続いていることに健康のありがたさを感じます。インフルエンザが大流行していますが、2025年は60年に一度巡ってくる「乙巳（きのとみ）」の年で、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年です。臨床検査技師としての経験を重ね、技術の向上と共に地域医療への貢献を一緒に続けていきましょう。

（倉田）